

旧高岡電燈本館(本丸会館本館)を利活用することに賛同する署名 ～高岡御車山祭をユネスコ無形文化遺産にするために～

高岡市もその利活用について検討しています

高岡市では、高岡御車山祭をユネスコ無形文化遺産にすることに取組んでいます。しかし、御車山祭は、国重要有形無形民俗文化財の指定を受けている全国五つの祭(京都祇園祭・日立風流物・高山祭・秩父祭・高岡御車山祭)のうち、唯一ユネスコへの候補となっております。

ユネスコは、本年11月28日に高山祭及び秩父祭について、既に無形文化遺産となっている京都祇園祭・日立風流物に類似していることから、無形文化遺産としない決定をしました。

この審査結果は、祭礼行事等といった単独の分野に該当するものとして申請されていることにより、ユネスコは二番煎じであると捉えている点に課題があります。したがって、高岡における取組みは、他祭礼との差別化をはかる必要があることが明らかとなりました。

御車山祭は、前田利常公による商工業の奨励により誕生しました。明治時代にはいと祭礼を維持してきた商人たちが高岡電燈を創業することで、さらなる経済力を獲得し祭礼の継承を容易にし、金屋町のものづくりも動力化し産業化を果たしました。その象徴的な遺産が旧高岡電燈本館(本丸会館本館)の存在といえます。そして、現在では、地域の文化財修理技術を活かそうという取組みにつながっております。つまり、高岡の提案では祭礼行事の分野に伝統工芸技術の分野を加えた形で独自性のある取組みとすることが無形文化遺産とするための有効な手段と考えます。

私たちは、このような状況のなか、どうしても旧高岡電燈本館(本丸会館本館)の存在が必要欠くべからざるものであり、より多くの関連遺産と共に継承と利活用に取組むことが、緊急を要する課題と考えております。

本館を解体し建設を計画している新急患医療センターについては、裏面資料のとおり敷地内(保健センター隣接駐車場)で別に建設することが可能と考えられます。

皆様方には、趣旨をお汲み取りいただき署名賜りますようお願い申し上げます。

平成24年1月8日

呼びかけ人 高岡の生きた遺産をまもる会
菅野 淳一(高岡電燈創業家)
塩崎 利平
本丸会館とまちづくりの会
代表 本田 恭子
富山県建築士事務所協会高岡支部
支部長 上井 章

私たちは、「高岡御車山祭」を大切にする立場から、次の取組みに賛同し署名いたします。

- 一 高岡御車山祭をユネスコ無形文化遺産にすることに賛成します。
- 一 ユネスコへの申請が早期に実現されることに賛成します。
- 一 高岡御車山祭関連遺産(伝統的町並み、旧高岡紡績、旧高岡電燈(本丸会館本館))の全面的な継承と利活用に取組むことに賛成します。
- 一 新急患医療センターは、敷地内別場所(保健センター隣接駐車場)等での建設に賛成します。

氏名	住所



本丸会館とまちづくりの会・富山県建築士事務所協会高岡支部(作成資料を一部改変し作成)高岡の生きた遺産をまもる会)